

◆今期間のポイント

<主要じょう乱の概要>

- 9日から10日にかけて、高気圧が日本海から日本の東に移動し、前線が日本の南から沖縄・奄美付近にのびる。
- 11日から13日にかけて、日本のはるか東の高気圧から気圧の尾根が本州付近にのび、日本の南を前線が南下する。

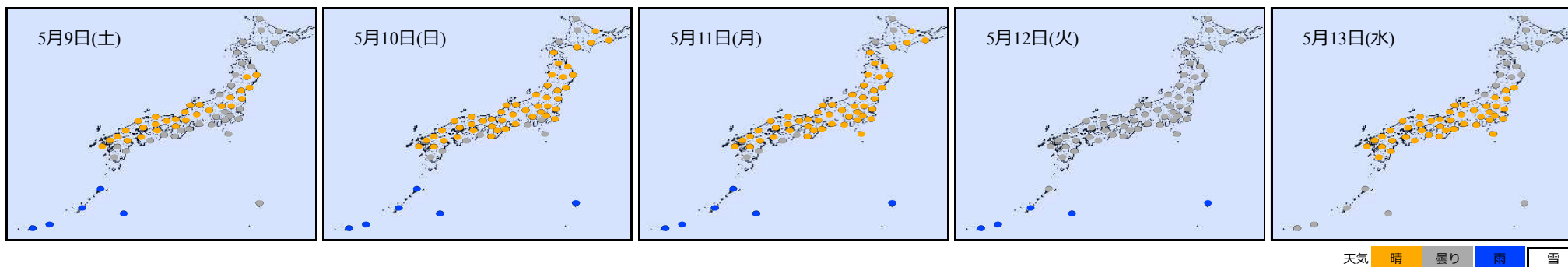
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- なし。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

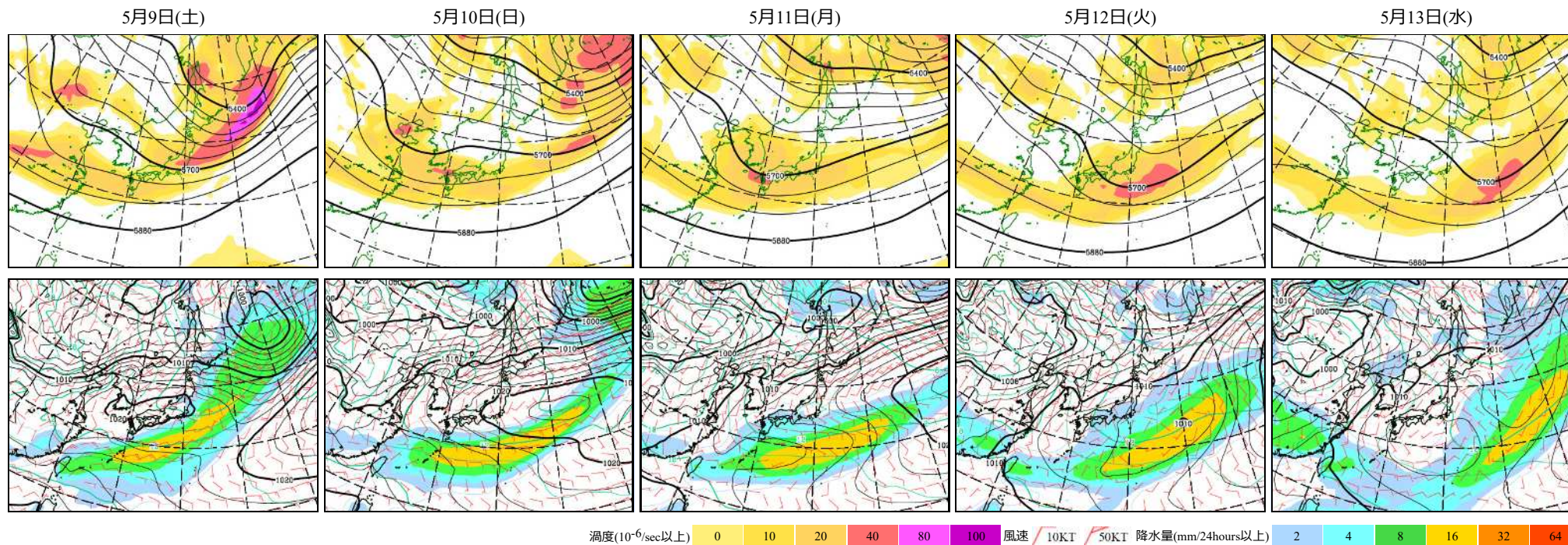
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

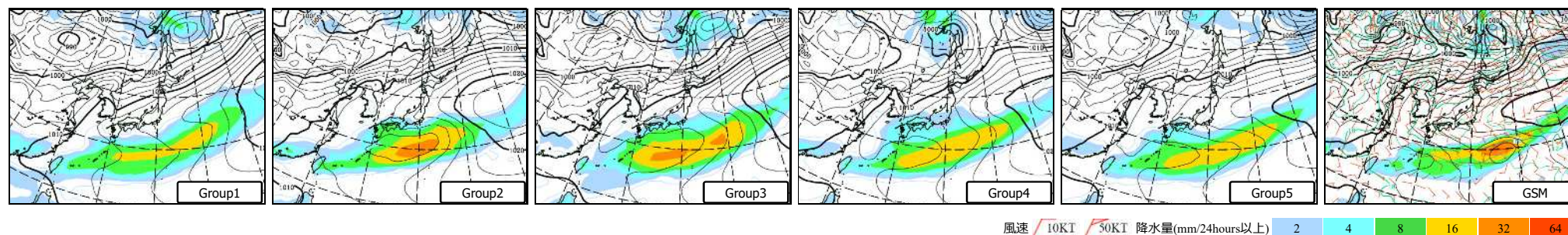


- 北日本は、曇りや晴れの日が多い。
- 東日本と西日本は、晴れや曇りの日が多い。
- 沖縄・奄美は、曇りや雨の降る日が多い。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆5月11日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、9日は、本州付近の高気圧が強くなった。10日は、日本の東の高気圧が強くなり、沖縄付近の気圧の谷が深くなった。11日は、日本の南の気圧の谷が深くなった。
- 降水確率ガイダンスの値は、9日は、東日本で小さくなった。10日から11日にかけて、沖縄・奄美で大きくなった。
- 期間後半は日本の南の前線の位置や、前線上の低気圧の位置や強さにモデル間やメンバー間の差がある。ENSは、12日から13日にかけて、日本の東で低気圧を発達させるメンバーがあり、日本のはるか東の高気圧と西日本付近の高気圧が離れているが、単独モデルでは気圧の尾根が繋がっている。
- スプレッドは期間後半は大きく、特定高度線のばらつきも大きい。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考えるが、単独モデルを参考に期間後半の日本の東の低気圧は割り引いて考える。